



# Viva Greens

グリーンズ千葉ニュース No.13  
—地球規模で考え、  
活動は足元から—

## —Contents—

- P1 政治活動とワークショップ
- P2 人を拒まないシェアハウス
- P3 「私の願い」 ベーシック・インカム  
コラム「風に吹かれて」
- P4-5 鴨川夏合宿
- P6 沖縄・南西諸島への自衛隊配備が意味するもの
- P7 いちかわ電力準備会から、NPO法人いちかわ電力コミュニティへ
- P8 「自然エネルギー」の発電所も、問題は山積みである！



## 政治活動とワークショップ

浅川 博之

皆さん、ワークショップ、体験された方はいらっしゃいますか？  
先月、ある政治的な集会で大々的にワークショップを取り入れて行いました。  
緑の仲間でもそうでしたが、政治活動をして来た方には、ワークショップは、  
実はあまり馴染みがない、全く初めてという方が結構多い。  
ワークショップでは、その場のライブ感がとても大事なのですが、  
どこに行くのか分からないワークショップは、怖くてならない。  
きちんと着地点を設定しておきたい。そんな意見が必ず出てくる。  
しかし、僕ともう一人のファシリテーターの女性と組んで、  
ワールドカフェ2回のあと、OST(オープン・スペース(=時間と空間の創造)・テクノロジー)という  
一人ひとりに関心を持つすべての課題が取り上げられ、円を作って互いの顔を見ながら  
対等にセッションを形成していく手法で、緑の会合でもやったことがないほど  
本格的なワークショップの台本をつくりました。  
しかも、OSTのテーマを決めるのも、一人一人が付箋に書いて行い、声をあげにくい人も  
テーマを出せるように配慮した初めての設定を試みました。その日出たのは  
市民会館などの名前に企業名がついたこと(ネーミングライツ)、保育福祉が民間に委託されたこと、  
ごみの回収日が減らされたこと、などなど。ワークショップに慣れない人が集まった政治的な集会で、  
この手法によって有益な議論ができ、次につながるステップとなって一定の成果をあげました。  
こうしたワークショップも、野党共闘+市民連合の形をつくっていくには、これからは必要なツール  
になっていくでしょうし、そう望んでいます。



## 人を拒まないシェアハウス

奥山 たえこ(緑の党会員、元杉並区議会議員)

この5月から、高齢者・収入の不安定な人・子ども連れなど、住まいを借りることに苦勞する女性のためのシェアハウス「栢あさひハウス」を始めた(防犯上、男性入居者もいるが公募なし)。今年9月施行の改正住宅セーフティーネット法では、上記「住宅確保要配慮者」の入居を拒まないことを条件に、空き家の改修費用や家賃補助の制度が用意されている(要件、対象件数とも厳しいが)。このハウスは人を拒まないという点で、まさにそれを先取りしたものである。



奥山さんと、「栢あさひハウス」の前で

### 「空き家活用」と言っても

栢駅南口徒歩7分、贅沢な作りの一軒家。礼金・敷金、連帯保証人等一切不要。敷地40坪、床面積138㎡、4LDKだったのを3畳程度と狭くする(壁の仕切り工事をした)ことで、家賃を低く抑えた(1.7畳で月額2万円～+別途管理光熱費1万円～)。全8室。専用個室は狭くとも、共用のダイニング、リビングはゆったり。2階にも共用スペースを設置。

なお杉並では、私に貸してくれる物件が見つからなかった。空き家が増えているわりには、「又貸し」を許可する大家さんが少ないからで、これも空き家が増える理由の一つ。また現在、無職・無収入の奥山に、毎月20数万円という高額物件を貸す奇特な方は居ない。結局、保証会社の審査不要(親族の連帯保証人でOKに)、原状復帰義務なしという好条件で、10年(←重要)の事業用賃貸借にこぎつけた。「空き家活用」と言っても、物件に出会うこと自体が困難なのである。

今回は結局、杉並の懇意の不動産屋が探してくれたが、次の困難は入居者探し。精一杯広報したというのに、3か月間ほぼゼロ(涙)。「やはり無謀だったか…」と頭を抱える日々。ダメ元でジモティーに掲載(無料)したら1名入居!さらに現在問い合わせありで、嬉しいビックリ。

### シェアハウスの利点

いま現在、男性2人(奥山の知人)、女性1名、母娘1組+犬2匹(知人の紹介)。これで半分が埋まった、ほっ。

さて、シェアハウスの利点は荷物を持たなくてよいこと。家電も食器も共有だしね。単身者がさらに増える今後、歳を取ったら断捨離してシェアハウスというのは如何だろうか。その前提として在宅介護の充実が必要だが、そのための政治を作りたいと考えている。協力者募集中。



## 【私の願い】 ベーシック・インカム(basic-income)=B・I

柘植 扶佐子

日本は経済成長一辺倒ですが、私たち緑の党の政策は 脱経済成長です。人口減少、超高齢化社会に突入するなか、今一度ベーシック・インカムを考えてみたいと思います。

### B・I とは何か？

政府が全ての国民に対して、必要最低限の基本的な生活を賄えるよう無条件で(性別、年齢、関係なく)所得を給付する政策。とりあえず死なない生活が人びとの願いだとするならば、B・Iはまさに理想的な政策です。

#### メリット:

- 生活苦から無理な残業、不利な働き方をしないで済む。
- ブラック企業が淘汰される。
- 余暇が増え、勉強やボランティアに使える。

#### デメリット:

- 財源をどのように捻出するか？
- 働かない人が増える。勤労意欲がなくなる。
- 経済競争力がなくなる。



今までに実施された国 ~カナダ、アメリカ、インド、ブラジル、ウガンダ、ナミビア  
(地域限定や、期間限定等、限定的な実施が多い。)

現在実施されている国、または予定されている国 ~イタリア、ケニア、フィンランド、アメリカ一部の州、オランダ等、世界に広がっている。

2016年11月には、スイスでB・Iの是非を問う国民投票が行われたが、否決。財源の確保や、労働意欲の低下を懸念。

### ハワイ州議会の動き

最新ニュース~ハワイ州議会が2017年6月、B・I導入すべく作業部会を設立する法案を可決した。

### ハワイ州の切迫した状況

- 生活コストが、全米トップ。(人口比率) 土地に限界があるので、住宅コストが高過ぎる。
- ホームレスも全米トップ(人口比率) 医療費やホームレス用のシェルター建設等財源が必要。
- 観光、サービス業にも、AIや新しいテクノロジーが進出し雇用が奪われている。ビジネス展望が悪化。

最後に、日本でも民主党政権時に子ども手当が支給されたことがありますが、これもB・Iと言えるのではないかと韓国では青年に支給されているそうです。奥が深く、多方面からの論議が必要です。これからも追求していきます。ご意見や投稿大歓迎です。

コラム



本の紹介『魂の退職』 東洋経済新報社

著者 稲垣 えみ子

(1965年生まれ 一橋大学卒業 朝日新聞社元記者)

### 「アフロにしたら、人生が変わった」

「もったいない」と言われながらも捨てた「美味しい生活」「お金」よりも、「時間」や「自由」が欲しくなった。魂が解放された、今までとは「違う世界」を生きたくなった。といったことと「アフロヘア」がどのように繋がるのか？  
読んでみてください。おもしろいです。





## 森と棚田に囲まれて、10年後を考えました ～第5回の鴨川夏合宿～

武笠 紀子

7月29日と30日、『グリーンズ千葉』と『緑の党ちば』共催の第5回鴨川夏合宿が行われました。目の前に、大山千枚田の広がる鴨川自然王国をお借りしての勉強会です。29日(土)の午後は、「社会を激震させる”2025年問題”って何？」(講師:白川真澄さん(季刊『ピープルズ・プラン』編集長、グローバル座標塾講師))。30日(日)の午前中は、「次の時代を、先に生きる。一まだ成長しなければ、ダメだと思っている君へー」(講師:高坂 勝さん(『減速して自由に生きる:ダウンシフターズ』『次の時代を先に生きる』著者))でした。午後は、鴨川パーマカルチャー(永続的農業と文化)を見学し、鴨川の自然を生かした実践についてスタッフの鈴木さんからご案内いただきました。次の時代へのヒントをもらった気がします。



### 「社会を激震させる

### ”2025年問題”って何？」を聴いて

手塚 玲子

「2025年問題」。団塊の世代が後期高齢者になり、社会保障費が膨らみすぎてパンクしてしまう問題について、現状と、25年にはどうなるか具体的な数字を挙げて説明してもらい、その重大さに改めて気づかされました。また、日本の税負担と社会保険料負担のアンバランスについても改めて考えさせられました。今現在だって社会保障は十分ではないのに、このまま手をこまねいていたら、高齢者の問題だけでなく若者も含めて国民全体の暮らしがどうなっていくのか暗澹たる気持ちです。



29日夕方の交流会。ふんだんな夏野菜料理の数々に大満足

しかし、問題が明らか以上、手遅れにならないよう何らかの手立てを講じていかなければと考えます。まず、会場からの発言にあったように、こういう問題があることを広め、多くの人と問題を共有し、どうしたらいいかを考えていく。自助努力ではなく、皆の問題として取り上げられるようにしていくことが大切だと思います。

本来、社会保障制度は国がきちっと施行しなければならないものですが、それが立ち行かなくなる状況に対して私たちの方から声をあげていかなければなりません。館山のサイレントアピールで「軍事費5兆円を社会保障費に」という横断幕を見て通りがかりの市民が強く納得していたと聞きます。そういう「実感」を、共有していきたいと思いました。



前に新聞で高坂さんのお店をとりあげていた記事を読んで「へえー、そんな人がいるんだー」と感心していた。今回の「次の時代を、先に生きる。一まだ成長しなければ、ダメだと思っている君へー」では「…その肝」が直に聞けて「そうそう、そうなんだよ」と膝を打つこと頻り。

ふだんの暮らしのなかで、「この商品はなんでこんなに安いんだ、この値段で生産者の生活は成り立つんだらうか」と安いことを素直に喜べない場面がある。安過ぎる理由をおしはかった挙句、一旦カートに入れた品物を棚に戻す。

商品が安いことは本来歓迎すべき筈なのだが、「安い」即「良いこと」の馴れを警戒したい。フェア・トレードという輸入品ばかりを思い浮かべがちだが、国内産品でもいろいろなサービスでも心したいと思う。「電通訓」(☆2)を逆さにして町中に掲示したいなー。



☆1「たまにはTSUKIでも眺めましょ」…高坂さんが2004年、「必要以上にもうけなくても生きていける」という仮説を実証する場を作ろうと、DIYで池袋に開いたオーガニックバー。著書とともにメディアに取り上げられること多数。店の名前は、「空を見上げて、月を眺められるくらいの自分の時間を取り戻そうよ」という思いをそのままつけたもの。



☆2「電通訓」…70年代当時の電通の戦略。

「もっと使わせろ」「捨てさせろ」「無駄遣いさせろ」「季節を忘れさせろ」「贈り物をさせろ」「組み合わせで買わせろ」「きっかけ投じろ」「流行遅れにさせろ」「気安く買わせろ」「混乱を作り出せ」。

これに対して高坂さんは、「できるだけ買わない」「捨てない」「無駄遣いしない」「季節に応じて暮らす」「贈り物はしない」「セットで買わない」「きっかけに踊らされない」「流行は気にしない」「衝動買いはしない」「混乱せずに、地に足をつける」ことを提唱。

### 「パーマカルチャー」とは？

柘植 扶佐子

パーマカルチャーとは、オーストラリアのビル・モリスンとデビット・ホルムグレンが構築した、人間にとっての恒久的持続可能な環境を作り出すためのデザイン体系のことです。パーマナント(永久的な)とアグリカルチャー(農業)あるいはカルチャー(文化)を組み合わせた造語です。目的は「地球を森で覆い尽くす」こと。



人類が永久的に存続し続けるために、農業などで土地を傷めることなく自然の恩恵を最大限に受けることに注力していく時代になりつつある。単にエコロジカルでなく、より美しく、よりおしゃれに、暮らしをデザインしたいものです。生活資本の活用、多様性等。パーマカルチャーは植物や動物だけでなく、建物、水、エネルギー、コミュニティなど生活すべてをデザインの対象としています。つまり森羅万象の関係性を、いかに美しくデザインするか。それがパーマカルチャーの目指すところだと考えます。

詳しくは～パーマカルチャーとは？  
[www. ultraman.gr.jp>howpermaculture](http://www.ultraman.gr.jp/howpermaculture)



## 沖縄・南西諸島への自衛隊配備が意味するもの

南西諸島ピースネット共同代表 猪股 哲<sup>てつ</sup>

沖縄のイメージに、人はどれほど縛られ続けるのだろうか。本土がようやく知覚した沖縄の米軍基地問題が最前線のつもりであっても遠のいている。沖縄のピックを表す言葉に「辺野古」や「高江」がある。それぞれは、人が通い続けたクロスポイントであることは間違いない。日本が反米軍基地闘争を繰り広げている最中、1972年の沖縄の本土復帰までは無法地帯に置かれていたのが沖縄である。「銃剣とブルドーザー」で米軍が沖縄県民の土地を強制接收した経緯を、日本政府は今日まで黙認している。沖縄への基地の集約を見て見ぬ振りをしてきたのは本土の責任であって、その免罪符は日米安保を無自覚に容認して顧みない属国の支配体制に安住した傀儡政権が繕う表層がこの国の一般認識を覆っている。

### 軍隊の本質を忘れないために

この欺瞞性を一皮めくるのは、沖縄からしかないのであろう。本土の人々が気づき始めた反面、実質的に動いている事態に目を向けなければならなく、実質はそれほどまでに時代の変化は急なのである。辺野古の新基地は自衛隊が使うことを前提にしているというスクープを報じたのは沖縄の県紙ではあるが、その続報はなく、日米が全体を見て島々を米軍から自衛隊に置き換えていくという流れを説明しきれていない。

この国に果たして戦争への警鐘を鳴らすジャーナリズムがあったのかどうか、歴史を紐解けば最前線の危機は隠されてはいないだろうか。私は沖縄県の最西端の与那国島に住み自衛隊基地の建設に一貫して反対し続けていた人間である。与那国島への新基地建設は、沖縄の日本復帰後、初めての事例である。沿岸監視隊という言葉の表層に騙されたのは、沖縄県民も本土の人間も、軍隊の本質を忘れて忍び寄る戦争の惨禍に対しても無力であったことを露呈したに過ぎない。近視眼的な中国脅威論と危機を煽り人々は共感し、反目しながら沖縄の運動に参加した本土の人間を責めるつもりはないが、自己満足に陥るような運動のありかたを一変しないと、いつまでも国家の周到なメディアコントロールに陥って、その本質を見失うことになる。

### 自衛隊の基地が、南西諸島に次々と拡がっている

先島への自衛隊配備を米軍問題と比較して是とする、その心にはどんなロジックがあるのだろうか。沖縄全体を俯瞰してみたとき、自衛隊の基地が南西諸島全域に広がって止めようもなく広がろうとしている。地方自治はその荒波の前に風前の灯火であり、それらは実質的に沖縄県内での「移転」に

過ぎないことを肝に銘じておくべきだろう。私は日本最西端の与那国島から沖縄の反基地運動も見続けていて、日本政府は明らかに狡猾な沖縄差別を継承しながら、離島の島々へ新基地を作ろうとしている。この動きに対して警鐘を沖縄が鳴らせないのであれば、一過性の反対運動は自己満足に陥る。米軍とあらゆるシステムを一体化して、沖縄を再び戦場にするような

捨て石作戦に対して、1944年に日の丸を振って牛島満が率いる守備隊として歓迎した愚をもう一度考えなおさなければならない。騙されるのも騙すのも共同の罪である。歴史に遡り平和を希求するのであれば、私たちはあらゆる時代の欺瞞に対して懐疑的でならなくてはならない。その最たるものが、離島への自衛隊配備である。



### 猪股 哲さん…

日本最西端の与那国島に移住して14年。日本で一番はっごにある一日一組限定のイタリアンレストラン「Ristorante TETSU」&「Moist Roll Cafe」を営業するシェフ・パティシエ。3・11後の日本崩壊を受け、2012年「よなこく」建国。南西諸島への自衛隊配備問題を中心に取材を繰り返し、島々と人のネットワークを作る「南西諸島ピースネット」共同代表

(「オーナーシェフのプロク」より抜粋)

## いちかわ電力準備会から、NPO法人いちかわ電力コミュニティへ

齊藤 真実 (同NPO理事長)

みなさま、初めまして！私たちの団体「NPO法人いちかわ電力コミュニティ」は2016年12月に設立されました。それまでは「いちかわ電力準備会」という名前で、市民発電を起ち上げることを第一目的に掲げ活動して参りました。



### 「なぜ、市川にはないの？」

きっかけは、2014年に市川市地球温暖化対策推進協議会とNPO法人気候ネットワークが合同で開催したワークショップ「低炭素な市川をつくる」でした。市川市で具体的な行動やプロジェクトを起ちこしていくためのアクションプランを練るべく、参加者がグループに分かれて議論しました。なんと、そのうちのほとんどのグループから、「市川市にも市民発電を！」という提案がなされたのです。2012年からのFIT制度が追い風となり、全国的に市民発電の動きは広まってきています。「なぜ、市川にはないの？」シンプルだけど重要な力強い疑問でした。その結果をカタチにしよう！とその時の有志数名が集まり、2015年8月末に「いちかわ電力準備会」という任意団体が発足したのです。

いちかわ電力準備会を起ち上げてからは、活動期限を1年～1年半と定め、その間に太陽光パネルを設置できる場所を探すこと、1人でも多くの協力者・専門家を集めることを命題としました。

### 自然エネルギーが活きる地域づくりへ

仲間集めに関しては、私たちの活動内容を地元紙で紹介して頂いたり、イベントを行って市内外にアピールするなどした結果、少しずつ仲間が増え始めてきました。

設置場所探しに関しては市内マンションのオーナーさんに屋上設置の可能性を打診しにお伺いしたり、市川市が所有する土地や建物に設置できないかと、市へ何度もお話に行ったりしました。そのような地道な行動を重ね、ようやくパネル設置場所を貸して頂けるところを見つけました！

いちかわ電力準備会は、当初決めていた活動期限を迎え解散しました。引き続き当NPO法人が、市民発電のPRはもとより、自然エネルギーの重要性・魅力を発信し、普及啓発活動をしていきます。ですが、まだまだ力不足です！これからも一人でも多くの方の協力を仰ぎ、自然エネルギーが活きる地域づくりを進めていきたいと思っておりますので、応援どうぞよろしくお願いいたします！

HP: <http://www.ichikawapower.com/>



### 「おいでませ！ごんべえ農園」

真木 彩子(グリーンズ千葉サポーター)

心は千葉に残しながら、筑波山麓で黙々と有機農業を営む大学の友人を手伝うために 農園からの贈り物 茨城に移り住んで3年半になります。季節の野菜を詰め合わせにしてお客さまにお送りしていますが、芋類の土を落としてきれいにして、延々と枝豆を枝から外したり、葉もの類の調整をしたり… 夜なべ仕事でいつもへとへと。お客さまとの様ざまな連絡が日々ありますし、得意でない家事もやらざるを得ず、ぜんっぜん自分の時間がありません。

そんな私の唯一の楽しみは、学生さんや友達、知人が農園を訪れてくれる日。大そうじやまかないの昼食づくりにてんでご舞いですが、土いじりを楽しみ、「おいしかった」と言ってくれる皆さんの笑顔が私の何よりの元気の源です。先日も、16年ご無沙汰だった大学の先輩が訪ねて来てくれ一緒に作業をしながら昔のように多くを語りました。同級生が、子連れで来てくれることもあります。

願うするのは草取り、間引き、苗の定植、種まき、などなど。これからの季節は、霜が降りる前に貯蔵するさつまいもや里芋の収穫があります。散らかった家ですが、ぜひ遊びにいらしてください！宿泊も、大歓迎です。

ごんべえ農園 茨城県石岡市弓弦117-3 [yasaibiyori@ybb.ne.jp](mailto:yasaibiyori@ybb.ne.jp)



## 『自然エネルギー』の発電所も、問題は山積みである！

グリーンズ千葉共同代表 武笠 紀子

7月8日(土)の午後、梅雨の合間の暑い日に、グリーンズ千葉主催の「山田<sup>せい</sup>さん学習会／脱原発と自然エネルギーの落とし穴・隠された真実」が行われました。

グリーンズ千葉では『脱原発』をめざしていますが、単に原発を止めるというだけでなく、積極的に代替エネルギーでの発電を提案し、自分たちでも実行していこうと考えてきました。しかし、代替のエネルギーとして有力視してきた風力や太陽光等の自然エネルギーによる発電にも、大きな問題があるとの指摘が気にかかっていました。今回、この自然エネルギー問題に早くから取り組み、日本各地で講演されている山田<sup>せい</sup>さんをお招きして、自然エネルギーの問題点について学習しました。

### 「自然エネルギー」という名前にごまかされてはいけない

日本で、自然エネルギーの中心となっているのは、風力と太陽光です。このどちらの発電所も、福島第一原発事故以降に盛んになったと思われていますが、実は原発事故の前から、着々と計画され準備されていたものだとすることを、時系列に沿って説明がありました。新たな金儲けのための事業として、税金を使う新たな公共事業として「自然エネルギー」が狙われていたという話です。

風力発電も太陽光発電も、実は山や海の自然を破壊し、景観を台無しにする開発行為であり、将来的には処理に困る多量の廃棄物が残されるものだと指摘です。さらには風力発電による被害は、バードストライクや低周波障害にとどまらず、振動が大地を伝うことで動植物に与える影響は計り知れないこと。やがて、有害物質を含む太陽光パネルの廃棄や不法投棄が大問題になること。原発を止めることが前提にあるが、「自然エネルギー」という名前にごまかされてはいけない。すでに、自然や人体に大きな被害が出ていることを真摯に受け止めなくてはならないこと。電気が必要なら、今ある化石燃料を少しでも長く使えるように、節約しながら使っていくことが、私たちの世代が、未来世代のためにできる(今の時点で)最善の方法であると思われること等のお話でした。



脱原発と脱化石燃料をめざすために自然エネルギーに飛びついては、『原発』での『あやまち』(原子力の平和利用・未来のエネルギー・CO2を出さないクリーンエネルギー等の宣伝文句に惑わされて54機も造らせた)を、再び繰り返す可能性があるのです。『自然エネルギー』に取り組む前に、まずその実態をしっかり学ぶことが大切だということが、良く分かりました。

これから、『自然エネルギー』についてさらに学習していきましょう。

### 『グリーンズ千葉』は、千葉で「緑の社会」の実現をめざして

活動します。「緑の社会」とは、全ての生命を大切に、公正・平等・非暴力で、多様性を尊重し、みんなが政治に参加する持続可能な「社会」のことです。

〒271-0092 千葉県松戸市松戸1879-24 ほくとビル5F

TEL/FAX:047-360-6064

<https://greens-party-chiba.jimdo.com/>

入会・カンパ募集中！郵便口座:00120-1-687008

